

2021年4～6月

廿日市市景況調査

Economic survey

全国の景況：日本商工会議所

全産業合計の業況DIは、▲26.7（前月比▲1.7ポイント）。米国・中国など海外経済回復に伴う需要増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業のほか、防災・減災を中心とする公共工事に下支えされた建設業が堅調に推移した。一方、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施に伴い長引く活動制約が足かせとなっている小売業や観光関連のサービス業は、業況改善が見通せないことから、低調な動きが続いている。ワクチン接種の加速化に伴う経済活動正常化や観光需要の回復のほか、東京オリンピック・パラリンピックの開催による経済効果に期待する声が聞かれるが、活動制約の長期化に伴う製品・サービスの受注・売上減少による業績悪化の継続や、原油価格を含む原材料費の上昇による採算悪化への懸念などの不透明感は拭えず、中小企業においては、先行きに対して依然として厳しい見方が続く。

廿日市の景況：廿日市商工会議所

※平成17年11月の市町村合併後は、旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果

全産業合計の業況DIは▲2.5。前回調査（1～3月）からプラス5.8ポイント持ち直す。産業別では、卸小売業が前回値（0.0）から今回値（▲22.2）とマイナス幅が広がり、飲食・サービス業では、前回値▲12.5から今回値とも▲14.3とわずかに減となっている。一方、建設業は今回値33.3で（前回値0.0）、製造業は今回値14.3（前回値▲13.3）と回復傾向にある。全業種にて仕入価格が引き続き上昇（前回値3.8→今回値22.2）。また、全業種にて雇用人員不足が広がっており、先行きも不足が続く見込み。

7～8月の先行き業況は2.1（前回値▲0.0）と回復への兆しを感じる結果となっている。

以下、産業別の各事業所から寄せられた景気動向の要因や今後の課題や重点事項など

【製造業】	『本来の稼ぎ頭・宮島本店の休業により収益率が低下。商品ロスの削減が課題。（食品）』 『消費者ニーズ・消費行動の変化に伴い、従来の販売状況が変化しており、その変化にどう対処してゆくか開発に注力。（食品）』 『商品開発』 『ヨーロッパからのブナ材が調達困難、国内の代替材の確保（木製品）』 『コロナ禍の影響を引きずっている様で、業績は芳しくない。課題は原材料価格に左右されない体質改革と製品価格の値上げである。（木製品）』 『安心・安全（労働・品質）（食品）』 『生産マネジメントシステムの継続的改善を通して、顧客満足度の向上に力を置いている。（鋼業）』 『受注の確保、原材料価格上昇への対応（木製品）』
【建設業】	『自治体、民間のIT・DX化に適材適所、先端な提案、業務をし続けること（設備工事）』 『コロナウィルスの影響はあるが、安全第一にしっかりした施行に徹し、顧客満足度を高め利益向上に努めている。（電気設備）』
【卸小売業】	『院内出入りがあり、消毒など感染対策への経費負担増（卸小売）』 『IT化の促進により生産性を向上させる。新規事業への取り組みにより新たな柱をつくる。Webマーケティングへの注力。（卸小売）』 『人手不足（販売）』 『接客の質の向上、有能な人材の確保（卸小売）』
【飲食・サービス業】	『同業種との価格競争（入札）が激しいので、内容を精査して今まで以上に注意しながら業務に取り組んでいる。（売上が上昇しても利益率が悪化している為）（広告デザイン）』 『既存従業員の労働環境整備（働きやすい環境や健康）』 『販売単価の上昇により仕入れ単価も上昇はしたが、資金繰りははすごく楽になった。（金属）』 『燃料が昨年対でかなり高値となっている。主燃料の（油）のため、他の製品にも影響している。新メニューの開発。（クリーニング業）』

業種別景況 概要	全国(6月)		廿日市 4~6月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲18.7	▲23.5	▲2.5	7.3	14.3	42.9	66.7	0.0	0.0	▲11.1	▲35.7	▲13.3
仕入価格	▲38.0	▲35.9	56.8	44.7	71.4	57.1	66.7	66.7	11.1	0.0	72.7	58.3
採算	▲25.2	▲26.7	22.5	22.0	42.9	50.0	100.0	66.7	▲11.1	▲22.2	7.1	13.3
雇用人員	9.1	11.7	▲17.9	▲19.5	▲7.1	▲14.3	0.0	▲33.3	▲33.3	▲33.3	▲23.1	▲13.3
業況	▲26.7	▲26.8	▲2.5	2.4	14.3	14.3	33.3	33.3	▲22.2	▲22.2	▲14.3	0.0

※ 全国調査は【日本商工会議所 LOBO 調査】をご参照ください

(対象 65 社 回答 42 社)

●DI 値（景況判断指数）について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

採算・業況：(好転) - (悪化) 収入・売上：(増加) - (減少)
仕入価格：(上昇) - (下降) 雇用人員：(過剰) - (不足)

DI 値 数値の目安

特に好調	$50 \leq DI$
好調 (上昇・過剰)	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振 (下降・不足)	$\triangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \triangle 25$

■設備投資は？

回答 40 社中

4~6月			7月~9月 見込み
実施 した	土地	1	0
	建物	2	2
	機械	9	7
	車両	6	5
	IT機器	7	3
	その他	2	3
	計	27	20
実施していない・しない			26

■当面の問題点は？

※回答のその他はランク外扱い

第1位	売上、需要が増えない	15.9%
第1位	新型コロナの影響がある	15.9%
第3位	材料費や仕入価格が上昇	15.0%
第4位	従業員や人材の確保が難しい	13.3%
第5位	店舗・工場・機械の不足、老朽化	9.2%

